

多面的評価の中国的特質

——総合評価入試の意義——

小川佳万, 肖芸萱 (広島大学)

中国では、2010年代から比較的多くの受験生を対象とする新たな試みである総合評価入試が一部の省で試験的に導入された。本研究では、この総合評価入試を多面的評価という観点から分析を行った。その結果明らかになったことは次の3点である。第一に、総合評価入試はしばしば「三位一体」と称せられるように、入学者選抜の判断材料を複数用いているが、それらの比重の割合も偏っていて、依然として筆記試験重視である。第二に、公平性の確保という点では、面接に係る手続き等の情報公開によって、つまり各大学が、その手続きを明確にすることによって客観性を担保しようとしている。第三に、総合評価入試は、筆記試験の成績を重視しているものの、その配点を大学側が決定でき、大学独自の試験の実施を可能にしている。また、それは運営自主権を拡大していく可能性も含まれている。

キーワード：中国, 大学入試, 多面的評価, 総合評価, 「三位一体」

1 本論の背景と分析対象

1.1 背景

巨大な人口を抱える中国において大学入試と言えば、現代の「科挙」とも称される統一試験（原語「高考」）を意味する。毎年6月7, 8, 9日の2日間もしくは3日間（省により異なる）実施される統一試験の風景は、マスコミで大々的に報じられ、その前後から大学入試改革論議も繰り返される。そこでは「点数の前では皆平等」という言葉があるとおり、筆記試験の点数による合否判断でとりあえずの公平性は担保されると考えられてきた。ところが、こうした筆記試験はいわゆる暗記偏重であり、生徒の学習時間を増加させ、身体的、精神的に過度の負担を強いることが強く批判されるようになってきた。また、受験中心の「応試教育」から子どもの知育・徳育・体育の全面発達を目指す「素質教育」という考え方の浸透も、ますます入試改革を促すことになった（辺, 2022）。

そのため1990年代以降、卒業試験制度の導入、受験科目数の削減、省別試験問題の作成、筆記試験評価の等級制等、大学入試制度の多様化に向けた改革が加速的に進展してきた。特に、受験科目の扱いが「3+X」方式と概括され、「3」科目である語文（国語）、数学、外国語は全ての省で受験を課すいっぽう、それ以外の科目は各省で設定する仕組みが導入され、受験科目における従前の統一性が緩和されたことは大きな変化であった。

また、一部の選抜性の高い大学では、「独自事前選

抜」として、独自に行う筆記試験や面接試験の成績に、統一試験の成績を組み合わせることで入学者選抜を行うことが可能となった（倉元・尹, 2021; 杜, 2021）。これは、従来の省当局から送付された統一試験の結果資料から大学側が合否判定するのは異なり、各大学が試験問題作成や面接の実施等、そのプロセスに関与することを意味した。ただしこの方式は、従来の統一試験が実施される6月以前に合格者を決定（あるいは仮合格）することと、特にごく一部の有名大学のみで実施されたことにより、いわゆる「青田買い」と揶揄されることとなった。

また、この新方式導入に関連して常に論点となったのは公平性への疑義であり、不正との闘いでもあった。例えば、大学側は、受験生の高校での努力を評価するために調査書内容から加点していこうとした。しかしその結果、受験生側は加点のためにさまざまな「工作活動」を学校側に働きかけたり、コンテストの虚偽報告がなされたりと多くの不正が露呈し、調査書利用の入試方式への信頼は失墜した（汪, 2010）。こうした状況では、いくら筆記試験批判をしたところで、他の方式よりは相対的に公平であると判断され、存続することになる。このように筆記試験以外の選抜方法には社会的な同意が得られにくいのが中国社会である。

ところが、その後も大学入試改革の動きは継続し、2010年代以降も新たな制度の模索が進んだ。中国政府は、東部沿海省である江蘇省、浙江省、上海市などを改革のモデル地域として指定し、2017年頃から新

入試制度がこれらの省で開始されている（徐，2020）。本論では、そのなかで総合評価入試の実態と特徴について明らかにすることを目的とする。

中国の大学入試を検討する際の前提として、理解しておくべきことは、各大学が省ごとに定員を割り振っているため、選抜の単位が省（直轄市を含む）となり、受験生にとって実際の競争相手は省内の受験生だという点である。この点は、入試問題そのものが全国共通であった時代から不変である。その理由は、人口が膨大で国土が巨大な中国において、受験生の成績等を一括管理することが難しかったためであった。現在ではコンピュータシステム化されているが、入試問題そのものも省ごとに異なっているため、省単位の選抜は継続されている。

1.2 論点

上記のとおり、こうした多様化を志向する大学入試制度改革は 2010 年以降も進められてきた。具体的には、「国家中長期教育改革および発展計画綱要」（国務院，2010）において、受験競争の緩和のため、学力検査のみに頼らない選抜方法を目指すことや、入試区分を増やすことが方針として示された。また、同綱要の方針を具体化するべく、「入試制度改革の深化に関する実施意見」（国務院，2014）においては、大学入試制度における過度な点数主義が学習者の全面的発達に悪影響を及ぼすこと、学習の負担が過多となること等を改善すべき課題として挙げながら、制度改革の必要性を強調した。

以後、例えば選抜方法の多様化や、入試区分の増設など、入試制度の多様化に向けた試みがなされてきたが、全体としては、慎重な進め方でしかなかった。例えばこの点について、石井（2018）は、制度上、複数の入試区分が設けられたが、入試区分によっては出願要件が厳格に設定され、実質的に規模が縮小されてきていることや、複数の選考方法を組み合わせる場合でも、そこに占める統一試験の割合が高い場合があることから、依然として統一試験の影響力は大きく、全体として入試制度の多様化が進められているわけではないことを指摘している。南部（2015）は、中国の大学および大学院における入学者選抜制度の縦断的分析と、その台湾、韓国、日本との横断的分析をとおして、中国の特徴は、「政府が強いかかわり規範化された学力筆記試験を核とする選抜を行うことによって、選抜における公平性、公正さの確保や質の維持が目指されている」と指摘している。つまり、中国では大学入試制度の多様化は、国家の関与による規範的性格を

与えられた筆記試験をベースとして、それによって保障される公平感を損失しない程度で別の選考方法を組み合わせる形で進められてきたと言える。

では、現在も大学入試制度の多様化が図られているが、それが上記の流れのなかに位置づくとするれば、「別の選考方法」はどのように設計され、公平性をどのように確保しようとしているのか。本論は、入試制度の多様化に向けた最新の試みである総合評価（三位一体）入試に焦点をあわせ、多様化のなかでいかに公平性を担保しようとしているのかを明らかにする。また、上記のとおり、従前の大学入試制度の多様化を志向するなかで、その公平性の観点から、統一試験の成績が重んじられてきた。いっぽうで、大学入試制度の多様化の目的は、「素質教育」の充実、すなわち、学習者の全面的発達の実現でもある。よって、全国統一試験のみでは測りきれない諸能力を測定する試みは常に要される。つまり、その試みの実現可能性や持続可能性は、いかに公平性を確保できるかどうかとも関係すると言えよう。よって、本論は、その測定方法そのものの妥当性よりも、多様化の試みとしての入試がその公平性を実践レベルでいかに示しているか、という点に焦点をあわせる。それを実証的に考察することは、中国の大学入試制度という文脈における公平性の概念を説明する手掛かりとなるとも言える。

1.3 本論の対象

そこで本論が対象とするのは、従来の筆記試験のみによる選抜ではなく、多面的な選抜方法であり、日本で言えば総合型選抜に近いとも言える。現在こうした多面的評価選抜は、以下の表 1 のとおり 3 種類ある。

表 1 多面的入試の種類

	募集対象	募集大学	選抜基準
総合評価	総合評価入試を実施している省の生徒	一流大学から一般大学までの一部	総合的に評価
強基計画	国策に関心があり、総合的な資質が優れ、基礎的な学科で卓越している生徒	一流大学の一部	1. 総合成績（統一試験の成績 85%以上、筆記試験、面接、体力測定） 2. 特定科目で優れた才能と表現を持つ
推薦	学術オリンピックの国レベル選抜メンバー、一部の外国語高校からの推薦による生徒、公安殉職者の子ども、引退したアスリート等	一流大学の一部	受験生が所属する高校による選抜、大学による総合評価

出典 広西師範大学（2021）・教育部（2021）・龐穎（2020）・陽光高考（2022）

表1の「強基計画」は2000年代に注目された有名大学を中心に実施された「大学自主募集」の発展型と言え、学術のさまざまな分野に秀でた人材を選抜するための方式である。また「推薦」は、1980年代からすでに実施されていたが、学術面や体育面、芸術面等の特定分野に特に優れていると認められた生徒や国のために殉職した親をもつ子弟に対して開かれた制度である。

そして本論が対象とするのは総合評価入試である。ここに注目するのは、特別に何かの才能を持っている生徒を対象とするのではなく、知育・徳育・体育の全面発達を目指す「素質教育」に基づく多面的な選抜が求められた結果として2010年代に入って新しく導入された制度であるからである。また、この総合評価入試は、特に浙江省では「三位一体」入試と言われ、従来の統一試験の点数のみで判定することから、さらに判断材料を2つ加えて、3つの観点から総合的に選抜しようとするものである(呂・楽, 2014)。

なお、この総合評価入試は、募集対象の規模が上記2つに比して大きい。その大まかなプロセスを説明すれば、大多数の受験生が選抜される一般選抜では6月上旬に実施される統一試験を受験し、その後受験生は、自分の得点を確認したうえで複数の大学に出願し、合否結果を待つことになる。一方、総合評価入試は、統一試験の前に出願し、統一試験を6月上旬に受け、その後6月中旬から下旬にかけて大学独自の試験を受け、一般選抜での出願以前に合否が決まることになる。もし不合格であれば、その後一般選抜に出願することになる。

2 総合評価入試の仕組み

2.1 対象省と対象大学

現在、どれほどの大学が総合評価入試を実施しているのだろうか。この点に関して教育部のような公的機関からの情報は公開されていない。そのため、それ以外から収集する必要があるが、本論では「自主選抜在線」(2022)というウェブサイトから収集した。2022年時点で同サイトには、総合評価入試を実施している全89大学の情報が掲載されている。現在4年制高等教育機関は約1300校であるため、おおよそ7%の大学が総合評価入試を実施していることになる。それらの大学の一部を掲載したのが、以下の表2であり、この総合評価入試の詳細を各大学のホームページから情報収集した。

表2 総合評価入試を実施する大学(一部)

大学名	募集地域	申請期間	募集定員
浙江大学	山東省	5月10日-5月18日	30
華南理工大学	山東省	4月17日-5月18日	58
南京大学	江蘇省	5月10日前	150
東南大学	江蘇省	4月30日-5月10日	150
浙江大学	広東省	2021年5月10日-5月22日	30
華南理工大学	広東省	4月6日-5月19日	250
浙江大学	上海市	5月14日-30日	10
華南理工大学	上海市	4月6日-5月19日	16
浙江大学	浙江省	2021年5月15日-5月23日	980
上海交通大学	浙江省	5月24日	295+

出典 表中大学のホームページから筆者作成。

表2のとおり、募集対象の省は限定されている。89大学が総合評価入試を採用していると先述したが、それらの大学が受験生を募集する省は、全体でも9省(省と同レベルの直轄市を含む)に限られている。これらの省は、一般に生徒の学力水準が高いと言われる、いわゆる「教育先進省」である。

また入学者選抜は省単位であると上述したが、これは大学側からみると定員を省ごとに割り振っていることを意味する。例えば表2では浙江大学が4回記されているが、各省に一定数を割り振って選抜している。

募集定員については差が大きい。特に省ごとの割り当て数もかなりの開きがある。例えば浙江大学は所在省に980人割り当てているが、山東省や広東省には各30人である。

ただし重要な点は各大学が全定員のどのくらいの割合をこの総合評価方式に割いているかである。この点、江蘇省の大学では全定員の5%程度を総合評価で募集することがいくつかの大学で確認でき、その割合は決して大きいとは言えない。一方、浙江大学の場合、省での取り決めは公開されておらず(あるいは存在せず)、大学全体の定員も公表されていないため、推測の域を出ないが、最も定員を多く割り当てている浙江省の一般入試で1903人、総合評価入試で980人を募集しているため、約30%であると推定できる。大学により割合の差も大きいことが推測できるが、それでも一般選抜がまだ主流であることは間違いないであろう。

2.2 総合評価の内容

総合評価入試は、浙江省では一般に「三位一体」入試と呼ばれている。これは総合評価入試では3つの角度から総合的に選抜することを意味する。言い換え

ば、3つの資料を利用することになるが、それらは統一試験の成績+学業水準試験の成績+大学独自の試験（面接を含む）の成績である。

繰り返すことになるが、一般に「高考」と呼ばれる大学入学試験は従来から実施されてきた統一試験である。一般選抜ではこの試験結果のみに基づいて行われる。学業水準試験とは、高校卒業に相応しい学力が備わっているのかを確認するための試験であり、高校の教育課程の「必修」の部分を確認するもので基礎的な問題が出題される（教育部、2014）。三つ目の大学独自の試験とは、その名の通り大学側の裁量で実施する試験である。統一試験と学業水準試験は省管轄であるのに対して、これは各大学が選抜試験を行う。

2.3 総合評価（三位一体）の割合

では、実際の選抜ではこれら三者はどれほどの割合であろうか。それを示したものが表3であり、各大学のホームページから情報収集した。

表3 「総合評価」の入学選抜での比重（一部）

大学名	統一試験	学業水準試験	大学独自試験
山東省対象 浙江大学	85%		15%（面接） 30%（面接，体力測定-資格 ³⁾
華南理工大学	60%	10%	
江蘇省対象 南京大学	85%		15%（筆記試験）
東南大学	85%		15%（筆記試験）
広東省対象 浙江大学	85%		15%（面接） 30%（面接，体力測定-資格）
華南理工大学	60%	10%	
上海市対象 浙江大学	85%		15%（面接，参考として総合素質評価）
復旦大学	85%	参考	15%（面接，参考として総合素質評価）
浙江省対象 浙江大学	85%	5%	10%（面接）
復旦大学	85%	5%	10%（面接）

出典 表中大学のホームページから筆者作成。

表3は、総合評価入試を実施している大学のうちの一部を示したに過ぎないが、それでも多くの情報を与えてくれる。第一に「三位一体」と称しているが、依然として統一試験の比重が高い。その多くが85%であり、共通の筆記試験に各大学が強い信頼を寄せていることがわかる。

第二に、一方「学業水準試験」は、5-10%ほどに

とどまっている。これは基礎的な学力を確認するという性質の試験であるため、選抜を目的とする試験としては利用しづらいからであると考えられる。

第三に、大学独自の試験としてはその多くが面接を採用していることがわかる。また、筆記試験を独自に実施している大学も少なくない。これらの大学は中国でも特に「数学」や「物理」等の科目の学力を重視する大学であり、応用的で難易度の高い問題で学力を確認する意図があると推測できる。ここで興味深いのは、体力測定を実施する大学が見られることである。その専攻もスポーツとは無縁であり、大学生生活を健康で過ごせる身体かどうかを確認するためかと推測される。さらに「総合素質評価」はいわゆる高校で作成された調査書利用のことであり、以前の入試改革でこの利用が強く批判されてきたことに鑑みると、参考とは言え活用しているところも興味深い。

3 学業水準試験

3.1 学業水準試験の意味

ここでは「三位一体」の2番目にあたる学業水準試験をみていく。この試験は1990年代に大学入試改革の一環として登場した卒業試験である「会考」にその起源がある。それは、高校で履修する全科目について卒業可能な水準に達しているかを判断するための試験であった。つまり、実質的な卒業認定を、学校単位ではなく省レベルで判断することにより、高校教育の質保証を目指したのであった（教育部、2014）。

この「会考」は、その結果を大学入試と連動させることが図られていた。特に受験生の負担軽減が叫ばれていた時期に、高校1年生から定期的に各科目の試験を受けていくことで学力を確認し、その一部を大学入試の結果に利用することで、統一試験の受験の負担を削減するねらいがあった。現在の学業水準試験はこの「会考」の後継であり、「三位一体」はそうした考えを発展させたと理解できる。なお同試験は高校卒業認定を目的とするので、試験内容は基礎的なものであり、60%前後の得点（素点）を得ることで合格とする省もあれば、浙江省のように下位5%のみを不合格と割合で判断している省もある⁴⁾。

3.2 現在の学業水準試験の例

統一試験と同様、「会考」を発展させたこの学業水準試験も省管轄であるため、省ごとに手続き、内容、評価方法が異なる。以下では上海市のケースを紹介する。上海市は教育改革、特に大学入試改革に関して近隣の省と並んでモデル地区として先進的な取り組みを

しており、中国全体の改革の方向性を見る際にその動向は検討に値する。

先に学業水準試験の役割として、卒業試験と入学試験（ただし一部）を兼ねると説明したが、上海市はそのための二種類の試験を実施する。高校卒業認定のための「合格性試験」と統一試験（「高考」）の試験科目としての「等級性試験」である。前者は、高校で履修する全科目が対象で、高校1年生から受験を開始する。その判定は「合格」「不合格」の絶対評価であり、「不合格」の場合は次年度に受験する。試験の日程は表4に示す。

表4 合格性学業水準試験の日程（2022年）

日付	時間	科目
1月8日	9:00-10:30	語文（国語）
	13:00-15:00	数学
1月9日	9:00-10:30	外国語（筆記試験）
	13:00-（30分間）	外国語聴解・口語試験
1月15日	9:00-10:00	化学
		思想政治
		物理
1月16日	9:00-10:00	歴史
		地理
		生命科学 ^⑤
1月17日	9:00-10:00	信息科技（情報技術）
5月23日-5月30日		物理・化学・生物学 技能操作試験
6月28日	9:00-10:00	化学
	13:00-14:00	思想政治
	15:30-16:30	物理
6月29日	9:00-10:00	歴史
	13:00-14:00	地理
	15:30-16:30	生物学
6月30日	8:00-9:00	信息技術（情報技術）

出典 上海市教育委員会（2021）

多くの省の学業水準試験は表4の合格性試験のことであり、この成績結果を、入学者選抜では5-10%加味するということである。

では、等級制試験とは何か。それは上海市独自の入試と関係している。上海市では、6月上旬に実施される統一試験では「語文（国語）」、「数学」、「外国語」の3科目のみ実施する。「理科」と「社会」については、1か月前の5月に実施される「等級性学業水準試験」が実質的な統一試験になっている。受験生の負担軽減のため、統一の日程を分散させたことを意味する。したがって、この等級性試験はいわゆる「理科」と「社会」の6科目のみで実施される。

表5 等級性学業水準試験の日程（2022年）

日付	時間	科目
5月7日	9:00-10:00	化学
	13:00-14:00	思想政治
	15:30-16:30	物理
5月8日	9:00-10:00	歴史
	13:00-14:00	地理
	15:30-16:30	生命科学

出典 上海市教育委員会（2021）

受験生は表5の6科目のなかから自由に3科目（あるいは大学・学部が指定する3科目）を受験する。その評価は、11段階の等級評価（A+, A, B+, B, B-, C+, C, C-, D+, D, E）である。最高と最低に5%の受験生が割り当てられ、残り9段階は各10%である。大学入試の際には、この等級が点数に換算され、大学入学試験の成績として合否判定に用いられることになる。

3.3 学業水準試験の得点

学業水準試験の評価方法は省により異なっている。それを各大学がどのように評価するのかの一例を示したのが表6である。

表6 学業水準試験成績の計算方法

省・市	満点	成績表示方式	成績の計算方法
湖南	750点	素点	学業水準試験の点数をもとに750点満点に換算。
四川, 陝西, 浙江	750点	A/B/C/D/E	A…減点なし B…1科目で満点の2%減点（750点満点の場合 $750 \times 0.02 = 15$ 点減点） C…1科目で満点の3%減点 D/E…出願不可
北京, 山東, 江蘇	750点	合格/不合格	1つの「不合格」は成績の20%減, 2つの「不合格」は成績の40%減, 3つ以上の「不合格」はゼロになる。

出典 中国科学院大学(2022)

これは中国科学院大学の方式であるが、この大学は750点満点で利用したいと考えているため、例えばA-Eの段階評価を行っている四川省や陝西省、浙江省の受験生の成績は、「Aなら減点なし」のような方式で計算していくことになる。最終的な点数も選抜の際にはさらに5-10%に圧縮されて合否判定の際の資料となる。

学業水準試験が等級性であるのは、基礎的な問題で

あるために受験生の多くが高得点に集中することを前提としているからであると推察される。それを順位による相対的な評価をした後で素点に換算すれば、最初の素点よりも受験生の得点差が付き、選抜資料としてはより有用なものとなるということであろう。

4 面接試験の内容

4.1 面接試験の方法

「三位一体」の3番目は、大学独自の試験である。上述のとおり、多くの大学で面接が実施されている。ただしその手続きや評価方法はブラックボックスになりやすく、公平性という点で批判されやすいため、大学側の情報公開が求められる。この点に関して、公開されている情報の一部を示したのが表7である。

表7 面接試験の概要

<p>寧波財經學院</p>	<p>一対多 半構造化面接 1. 待合室で待つ 2. 呼出された後、閲覧室で資料を読み、8分間考える。 3. 自己紹介+試験官からの質問に答える</p>	<p>【質問1】日本からの放射性廃液の排出による影響とその関連問題 【質問2】新エネルギー車に関する問題 【質問3】若者はなぜファミリー企業で働くことを嫌がるのか、そのような問題はどのように解決すればいいのか?</p>
<p>温州商学院</p>	<p>筆記試験+リーダーレス集団面接 1. 筆記試験 900 開始 (マークシート, 1時間) 2. 13時頃に面接に参加できるかどうかの連絡が入る (足切りライン 60~62点) 3. リーダーレス集団ディスカッションに参加する</p>	<p>【質問1】大学生活において、徳知体美勞の割合はどうあるべきだと思いますか? 【質問2】大学時代に起業することのメリットとデメリットは?</p>

出典 自主選抜在線 (2022)

先に言及したとおり、現在総合評価入試を実施しているのは 89 大学であるが、面接の内容をウェブで公開しているのは 8 大学のみである。表7はそのうち 2 大学の内容を示したものである。ここから得られる情報は、第一に面接の手続きが明文化されていることである。両大学の説明から、面接の手順や具体的な質問例が示されており、これだけでも受験生にとっては準備がしやすくなると思われる。おそらく、これは透明性を確保し、採点の公平性を担保する意図があると考えられる (田・巖, 2018; 杜・鐘, 2021)。

第二に、受験生の多さを考慮してか (ただし各大学が実際に毎年何名の受験生を面接しているのか不明である)、温州商学院は筆記試験を先に課すことによ

て人数を絞り、さらに集団面接法を採用していることがわかる。表に掲載されていない他大学の情報も確認したところ集団面接が多い。この情報も受験生にとってはかなり有益なものとなる (黄・陳・陳, 2021)。

第三に、以前に出題された問題だと思われるが、具体的な質問が例示され、ここから特定の問題に対する知識や考えを尋ねていることがわかる。その場で尋ねられることにより、既存の知識を瞬時に組み合わせ、説得的な論理を展開できるかが高得点の秘訣であることがわかるであろう。

4.2 面接試験の意義

こうしてみると面接試験は複雑ではあっても、手続きはある程度システム化され、受験生には概要があらかじめ把握できる状態である。この状態であれば、仮に面接点が低い結果になったとしたら、質問にあまり答えられなかったからとか、他人の意見を踏まえて自分の意見を展開できなかったから、とある程度納得のいくことになるのではないであろうか。

中国では、多面的評価であっても統一試験と学業水準試験の結果を利用していることが明らかとなったが、基本的に大学側がそれらの作題、採点のプロセスに介入することはない。その点、面接試験や大学側独自の筆記試験を実施することは、大学独自の募集方法に基づく試験方法で学生を評価でき、何よりも受験生の「顔」が見える状況で合否判定ができるという点で大学の自主権の行使という意義をみることができる。

5 まとめ

以上本論で、中国の大学入試制度改革の最新の動向を、多面的評価という観点から明らかにした。中国的特質として浮かび上がったのは以下の 3 点である。

第一に、多面的評価の意義である。「三位一体」という言葉があるように、入学者選抜の判断材料を複数用いていることが確認できたが、それらの比重の割合も偏っていて、依然として筆記試験重視であることも明らかとなった。これは、これまでの先行研究 (石井, 2018; 南部, 2015) で示されてきたことでもあるが、現在でも確認できた。やはり、教育部の関与によって設計された筆記試験への信頼は依然として大きいと言えるのではないだろうか。

第二に、公平性の確保という点では、面接に係る手続き等の情報公開によってなされている。第一で確認したように、中国では、総合評価入試においても、教育部によって管理された筆記試験が重要な位置を占めている。そして省ごとに選抜方法は多様であるにして

も、省によって管理された選抜が公平、公正であるという考えもがうかがえる。いっぽう総合評価においては、その選抜に各大学が関わっていることも確認できたが、その手続きに関する部分を明確にすることによって客観性を担保しようとしていることがわかった。また、面接等の手続きも概要を明らかにすることによってできるだけ透明性を確保しようとしていることも明らかとなった。

第三に、統一試験と学業水準試験が、大学独自の試験問題によるものでも独自の採点方式によるものでもないことに鑑みると、総合評価入試は、こうした筆記試験の成績を重視しているものの、その配点を大学が決めることができ、大学独自の試験の実施を可能にする。国家の計画に基づく開講科目の決定等、さまざまな権限が制限されている中国の大学において、それは運営自主権を拡大していく可能性を指摘できる。統一試験以外の多様な指標を用いた選抜は、もともと大学の運営自主権の拡大を目的の1つとして導入された経緯があるが、そうした選抜の大学入試全体における相対的な規模は特に学術面で優れた受験生を対象としていたため限定的であった。それに対して、本論で対象とする総合評価は、より多くの受験生を対象としている。上記の第二のとおり、公平性の確保が社会的に認められ、選抜の規模が大きくなれば、それは多くの大学が大学自主権を機能として拡大させていくことでもあると言えるのである。

注

- 1) 南京師範大学・江蘇大学・江蘇師範大学等の総合評価募集要項(2021)を参考にして推定した。
- 2) 浙江大学(2022)及び浙江省教育考試院(2022)を参考にして推定した。
- 3) 「体力測定一資格」とは、体力測定で一定基準に達していなければ、他が優秀であっても不合格になることを意味する。
- 4) 浙江省教育庁(2014)。学業水準試験の成績は、A, B, C, D, Eの5段階で評価され、Eは不合格となる。得点に基づき、実際の受験生数の15%, 30%, 30%に最も近い累積率でA, B, Cを付与し、Eは5%を超えないようにしている。
- 5) 「生命科学」と「生物学」は同じ内容の科目である。上海市では2021年9月以降の入学者は「生命科学」を「生物学」という名称で履修している。

謝辞

本論は、JSPS 科研費 JP19KK0051 の助成を受けたものである。

参考文献

辺新燦(2022)。「21省分新高考方案総合分析思考」『課程・教

材・教法』第42巻第1期, 131-139.

杜瑞軍(2021)。「我国高校自主招生政策演變の多重邏輯」『教育學報』第17巻第1期, 110-129.

杜瑞軍・鐘秉林(2021)。「高校総合評価招生模式的改革動因, 經驗啓示及未來走向」『北京師範大學學報(社會科學版)』第4期, 58-73.

広西師範大学(2021)。「什麼是総合評価招生?」『求學』第46期, 17-19.

國務院(2010)。「國家中長期教育改革和發展計劃綱要」(2010年7月29日), 教育部。

http://www.moe.gov.cn/srscite/A01/s7048/201007/t20100729_171904.html (2022年8月10日)。

國務院(2014)。「國務院關於深化考試招生制度改革實施意見」(2014年9月3日), 教育部。

http://www.moe.gov.cn/jyb_xxgk/moe_1777/moe_1778/201409/t20140904_174543.html (2022年8月10日)。

黃鶴・陳夢・陳佳文(2021)。「RSA框架下“三位一體”招生改革及啓示—基於2016—2019年浙江省52所高校“三位一體”招生簡章的文本分析」『教育與考試』第1期, 5-15.

石井光夫(2018)。「中國の大學入試個別選拔改革—調查書活用やAO入試の試み—」東北大學高度教養教育・學生支援機構編『個別大學の入試改革』高等教育ライブラリ14, 東北大學出版會。

江蘇大學(2021)。「江蘇大學2021年総合評価招生簡章」(2021年4月28日), 江蘇大學。

<https://zh.ujs.edu.cn/info/1108/7432.htm> (2022年8月15日)。

江蘇師範大學(2021)。「江蘇師範大學2021年総合評価招生簡章」(2021年4月28日), 江蘇師範大學。

<http://bkzs.jsnu.edu.cn/e9/92/c10717a321938/page.htm> (2022年8月15日)。

教育部(2014)。「教育部關於普通高中學業水平考試的實施意見」(2014年12月16日), 教育部。

http://www.moe.gov.cn/srscite/A06/s3732/201808/t20180807_344610.html (2022年8月10日)。

教育部(2021)。「教育部辦公廳關於做好2022年普通高等學校部分特殊類型招生工作的通知」(2021年10月28日), 教育部。

http://www.moe.gov.cn/srscite/A15/moe_776/s3258/202110/t20211029_576198.html (2022年8月10日)。

倉元直樹・尹得霞(2021)。「わが國の高大接続改革と中國, 韓國, 台灣の大學入試多様化政策—特に中國の入試改革との同型性, 共時性を中心に—」『大學入試研究ジャーナル』31, 83-90.

呂慈仙・樂伝永(2014)。「高校“三位一體”総合評価招生模式改革的分析—基於利益博弈的視角」『教育研究』第1期, 98-104.

南部広孝(2015)。「中國における大學及び大學院の入学者選抜」『東アジアの大學・大學院入学者選抜制度の比較—中國・台

湾・韓国・日本一』東信堂, 21-55.

南京師範大学 (2021). 「南京師範大学 2021 年総合評価招生簡章」(2021年4月28日), 南京師範大学.

<https://www.nnu.edu.cn/info/1205/15301.htm> (2022年8月15日).

龐穎 (2020). 「強基計画の伝承, 突破与風險—基於中国高校招生“自主化”改革的分析」『中国高教研究』第7期, 79-86.

上海市教育委員会 (2021). 「上海市教育考試院關於2022年上海市普通高中学業水平考試的實施細則」(2021年11月30日), 上海市教育委員会.

<https://edu.sh.gov.cn/cmsres/00/00704d34625e4585879ca44909b98ba0/7e217b3a619e8d7bd026254f81f815a0.pdf> (2022年8月10日).

田愛麗・嚴凌燕 (2018). 「高校総合評価招生の理論, 実践与展望—以上海市高考総合改革試点学校為例」『華東大学学報(教育科学版)』第3期, 69-78.

汪陽生 (2010). 「我国高校招生自主權研究」, 西南大学修士論文.

徐姝 (2020). 「基於浙沪高考総合改革試点的政策研究」, 東南大学修士論文.

陽光高考 (2022). 「2022年保送生報考指南」陽光高考

<https://gaokao.chsi.com.cn/gkzt/bss2022> (2022年8月17日).

浙江大学 (2022). 「浙江大学 2022年浙江省“三位一体”総合評価招生簡章」(2022年5月12日), 浙江大学.

<https://zdzsc.zju.edu.cn/2022/0512/c3299a2541426/page.htm> (2022年8月15日).

浙江省教育考試院 (2022). 『2022年普通高校招生計畫・普通類』浙江攝影出版社.

浙江省教育厅 (2014). 「普通高中学業水平考試實施辦法」(2014年11月7日), 浙江省教育厅.

http://yzt.zj.gov.cn/art/2014/11/13/art_1532984_27488005.html (2022年8月15日).

中国科学院大学 (2022). 「中国科学院大学 2022年本科総合評価招生簡章」(2022年3月31日), 中国科学院大学.

<https://admissionucas.ac.cn/showarticle/Article/dc7dc7f7-1b95-4d46-80e9-b6b29c4278a2f2c6b866-4795-4ff-98f9-353b240d7bd4> (2022年8月17日).

自主選拔在線 (2021). 「重点高校 2021年総合評価招生簡章滙總」(2021年12月13日), 自主選拔在線.

<https://www.zizzs.com/c/202009/48649.html> (2022年8月20日).